

船舶事故調査報告書

平成26年8月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年1月24日（金） 09時00分ごろ以降の投錨後～14時33分ごろの間）
発生場所	関門港若松第5区の製鉄戸畑泊地 福岡県北九州市所在の戸畑航路導灯（前灯）から真方位056°680m付近 （概位 北緯33°55.3′ 東経130°52.0′）
事故調査の経過	平成26年1月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーモーターボート ^{タカ} ^ツ TAKA丸Ⅱ、5トン未満 290-48849福岡、個人所有 5.58m (Lr) × 1.98m × 0.90m、FRP ガソリン機関、44.10kW、平成8年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 77歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年7月16日 免許証交付日 平成23年3月31日 （平成28年4月17日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成26年1月24日09時00分ごろ魚釣りをする旨を家族に告げて自宅を出発した。 船長は、本船付近で漂流中のところ、14時33分ごろ北九州LNG護岸にいた作業員に発見され、同護岸上に引き上げられた。 船長は、心肺停止状態であり、病院に緊急搬送され、蘇生し、人工心肺装置が着けられたが、翌25日08時39分ごろ医師に死亡が確認され、死因は溺水と検案された。 死体検案書には、直接には死因に関係しないが、傷病経過に影響を及ぼした傷病とし、低体温、頭蓋骨骨折、気脳症及び蘇生後症候群の記載があった。

	<p>本船は、戸畑航路導灯（前灯）から真方位056° 680m付近の製鉄戸畑泊地で錨泊しており、海上保安庁の巡視船により、若松海上保安部前の棧橋にえい航された。</p> <p>（付図1 事故発生場所 参照）</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南南西、風力 4</p> <p>海象：潮汐 上げ潮時</p>
その他の事項	<p>本船の船外機は、発見時、停止していた。</p> <p>船長は、発見時、救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、携帯電話を身に着けていたが、揚収後、海上保安官が見分したところ、水没により、使用できない状態だった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、24日09時00分ごろ以降において、製鉄戸畑泊地で投錨した後、14時33分ごろ船長が本船付近で漂流しているところを付近の護岸にいた作業員によって発見されたことから、この間において、船長が、落水したものと考えられるが、落水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が製鉄戸畑泊地で投錨した後、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話は、緊急の際に使用できるよう、防水パックに入れるなどして身に着けておくこと。

付図1 事故発生場所

